



多様だより



東京都小学校体育研究会 多様な動きをつくる運動（遊び）部会記録

R7 8月21日（木）
千代田区立富士見小学校
記録：正木 No.11

★参加者★ 常任理事 ○B 部長 副部長 授業者

常 佐久間校長先生	葛飾区立小松南小	授 五十嵐先生	葛飾区立よつぎ小	古山先生	世田谷区立用賀小	奥寺先生	武蔵野市立井之頭
部 中本先生	東久留米市立第三小	三上先生	大田区立調布大塚小	中村先生	小平市立第十小	近藤先生	大田区立梅田小
副 森田先生	板橋区立常盤台小	荒井先生	墨田区立二葉小	大倉先生	多摩市立聖ヶ丘小	川村先生	武蔵野市立境南小
副 村上先生	世田谷区立経堂小	高島先生	足立区立中川東小	鰐永先生	牛久市立向台小	田村先生	墨田区立横川小
副 山本先生	足立区立千寿双葉小	加藤先生	江戸川区立一之江小	関口先生	昭島市立田中小	鈴木先生	昭島市立光華小
						正木先生	小平市立第十小

本日について

令和7年度東京都小学校体育研究会夏季合同研究会で研究発表をしました！

内容

①意見交換

～研究の3つ手立て～

1. 楽しさの設計図
2. 子供の学習状況に応じた「学びの共有」の働きかけ方
3. 中学年における「多様な動きをつくる運動」の学習過程の在り方



②質問を基にした主な話し合い

疑問	楽しさの設計図	学びの共有	学習過程
○話し合いの内容 ★参加者の意見	○設計図は「型にはめるもの」ではなく、柔軟に参考とする考え方が必要。 ★設計図を見れば子どもの学び方が分かるようになるという。 ★学習過程と設計図の繋がりをはっきりさせるといい。	○全体では学び方や基本の動きのこつを共有する。小集団や個別では学びのサイクルを自分で回すための課題解決を支援する。 ○その場に居合わせた動きや課題が共通する小集団で集める。 ★学びの姿を判断する「型」があるといい。 ○動きの視点（資料：よい動きの花）を参考にし、教師の狙いをもとに授業で取り上げる。 ○皆ができる動きに焦点を置く。	○3年生は複合的な動きを知り、幅を広げる。 ○4年生は課題を明確にし、試行錯誤で質を高める。

③講師指導講評

- 「自ら学び続ける力を身につけた子供」「自己決定し試行錯誤しながら運動遊びに取り組む姿」といった表現は、具体的に子供の姿をイメージしやすい。
- △子供が学びのサイクルを回す過程では、子供同士の関わりが不可欠。部会としての位置づけを整理すべき。
- △3年生、4年生の違いを強調しすぎると分断的に見える。
- △教師にとってのコンテンツは、授業準備を助ける「指導計画に近い形」が望ましい。

今後の方向性

- 年度ごとのリニューアルを前提に継続的に改善。
- 「仲間共に学ぶ姿」を研究主題や資料に、より反映させ、研究の一体感を高めていく。

次回の部会

9月3日（水）18：30～ 「第9回部会」 東久留米市第三小学校

読んでくださりありがとうございます！！部会にもぜひいらしてください。一緒に勉強しましょう！！